



各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会

虹の通信 第29号

2018年 8月22日

— 「生産性がない！！」 —

月刊誌「新潮45」8月号に書かれた杉田水脈衆議員の「LGBTへの支援の度が過ぎる」が最近話題になった。話題になる根底には、現代社会の中で、他者への偏向した見方や、受容の狭さが進行しており、「働かない、或は働けない」者への侮蔑や他国籍者への偏見や排斥意識等、普通の市井の人から見ても「どうかな？」と首を傾げる場面も多い。

川崎市で頻発した在日者への排斥運動はその一つの象徴でもあるような気がする。

私たち福祉に携わっている組織人としては、こうした傾向に無関心ではいられないと共に、しっかりと主張していかなければなりません。だが、残念なことに関係団体は余り関心がないようだし、福祉関係の色々な機関誌やパンフレットにもこうした傾向に論駁し、訴える論調は見えない。

特に高齢者介護においては、身体や能力に於いて現代社会に貢献できない方々の最後の豊かな生活を支援するために各種の介護事業の運営を行っている。そのために投下される福祉経費は莫大であり、私共の各施設、各事業はその恩恵を受けている。その役割と責務は十分自覚しているつもりだ。

杉田議員の主張を社会的に広げてみていくと、こうした経済資源投下は、直接的には利益を生まないし、「生産性がない」と言い括られてしまうのではないだろうか。

人の社会は色々な人が存在して影響しあい、批判し、議論しあう事で、人として豊かになり、社会も暖かで、安心して生き生きと暮らせる地域や国、人類になるのではないのでしょうか。

社会福祉法人永寿会は、前述の中に書き込まれている「あたたか、安心、生き生き」が法人のテーマです。

異質な人や支援が必要な人々を支えなければ、また、次々と切り捨てていけば、次は私達です。「普通」というのは全体の中で真ん中当たりを総称するので、最下から最上までなければ、「普通」は成り立ちません。少なくとも国会議員であり、国の方向を議論する立場の人としてはあり得ない主張と思います。また、所属する政党からは最初はほっかむりで、火が燃えだすと注意喚起でその場を過ごすのはみっともない限りです。

情けなや。

以 上